

いものか、頼母はちよつと考えたのですが、

「佐藤豊助」。

と、言いますと、

「ああ、あの計算好きの男か。」

二人の家老の顔に、ようやく明るさがうかんできました。

佐藤豊助は、寛政五年（一七九三年）会津若松に生まれました。父は身分の低い武士でしたが、農民や町人の上に立つ武士は学問をしなければならぬという考えから、幼い豊助を近くの塾じゆくで学ばせていました。

しかし、豊助は、塾の勉強よりも、家でこつこつとひとりて学ぶことを好みました。何をやっているかとみると、豊助はいつもいろいろな計算問題をといているのでした。

「お前は計算などばかりしているが、それではりっぱな武士になれないぞ。」